

## 谷津田保全活動への抱負

新年あけましておめでとうございます。今年も谷津田の活動へのご支援をよろしく申し上げます。

下大和田や小山の谷津田で活動している皆さんに、2014年の抱負を語っていただきました。

### ★下大和田

- ・里山くらぶが本格的に動き出しました。複数の地主さんのご了解もいただき活動可能な範囲が大きく拡がりました。YPP、観察会の様に長く継続できる活動に育て上げ、下大和田の谷津田環境の保全に寄与したい。その為にも先ずは健康でありたいです（網代春男）。
- ・今年こそは、草に負けない田作りをしたいと思いますが、どこまでできるか絵に描いた餅にならぬように頑張りたいと思います。身体も故障しがちで前のように頑張れませんが、途中棄権しないようにマイペースで活動します（石橋絢吉）。
- ・年々少しずつ違う顔を見せてくださる下大和田の命達と今年もおだやかな時を過ごせますように（大谷祥）。
- ・愛知目標を受けて、我が国の生物多様性国家戦略では、2020年までに生物多様性の損失をストップすることになっていますが、一方、2020年は東京オリンピック開催年でもあり、それに連動した様々な開発も予想されます。この二つの相反する動向を満足するには、生物多様性オフセットを真剣に考える必要があり、今後、オフセットバンクとして、里山に注目が集まることが考えられます。今年は、下大和田での取り組みで、生物多様性オフセットの里山バンクキングとしての可能性を考える（勉強する）スタートの年としたいと思います（小田信治）
- ・今年は活動エリアが広がります。私たちにできるかなとちょっぴり不安もありますが、せっかくのチャンスを大切に生かしていきたいと思います（小西由希子）。
- ・谷津田保全活動を通じてたくさんの一般参加者の皆さんとコミュニケーションを図れたらいいな。・・・と思っています（渋谷雄二）。
- ・昨年実現できなかった谷津の空撮を行い、皆さんにお見せできるような映像を撮れるようになりたい（高山邦明）。
- ・谷津田だより83号（2009年1月号）に初めて書いた活動の抱負。今回が6回目ですが、毎年自分の好きな活動を粛々と続けていくのが一番ですね。今年もマイペースでいきます（田中正彦）。
- ・今年も出来る限りYPPに参加し、子ども達と一緒に田んぼを楽しませてもらいたいと思います。またお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします（中村真紀）。
- ・昨年より日本の農業政策が大きく変わり 今日本の農業は大きな曲がり角を迎えるようです。日本の経済と社会システムはますますグローバル化するのでしょうか。しかし日本には忘れてはいけない大切なものがあります。人々と谷津田の関わり合い、里山の持つ重要性はますます重きを増していくように思えます。少しでもそのことを多くの人に伝えたい。気づいてもらいたい。思い出してもらいたい。ほんのわずかでも、自分がその一助になることができれば、と思います（平沼勝男）。
- ・刈払機とチェーンソーの操作講習を受けて、森の手入れをちば里山くらぶの方々と楽しくやっていきたい（南川忠男）。
- ・昨年は「田の草取りを頑張りたい」と宣言しましたが、あっさり断念してしまったので今年こそ「田の草取り」に力を入れたいと思います。事務所の仕事ももう少し全体をよく見て、手際良くしていきたいと思っています（吉田紀恵）。



自然物を使ったウマのクラフト（渋谷雄二さんの作品）

### ★小山

- ・稲富ファミリーの抱負
  - \*直彦（父）：おたまのしっぽ田んぼに、伸び伸び田植え、のびのび分蘖（ぶんげつ）に挑戦。あざみ谷田んぼで治水修業、しかる後、我が家の修業田んぼの拡大。
  - \*理枝（母）：またまた今年も、田んぼに来てくれる子ども達の、きらきら輝く笑顔に沢山会える様に頑張ります。
  - \*晴彦（小学生）：ザリガニ料理研究。
  - \*真理（小学生）：田んぼのお花の絵を沢山描く。
- ・無理なく、楽しく、活動に参加していきたい（今川友子）。
- ・地元の方々やスタッフ、お手伝いに来て下さる保護者ボランティアの方々に感謝の気持ちを忘れず、誠意を持って接していきたいと思っています。また、今年は、農作業をしながら、じ〜っと生きものの観察もできたらいいなと思っています。（江澤芳恵）。
- ・今年度の午さん未さん達との田作りは元気一杯の時間でした。昨年度の巳さん未さん達とは春にお味噌仕込みもできました。来年度も楽しみです（大谷祥）
- ・YPPの活動がスタートして10年目になりました。参加される皆さまと谷津をわたる心地良い風を受けながらこの一

年を過ごしたいと思います（齊藤 薫）。

- ・昨年から広がった田んぼでの作業を無理がないように効率よく進める方法を考えたいと思います（高山邦明）。
- ・昨年も、学校田んぼの作業を通して、たくさんのお会いがありました。学校田んぼの対象は5年生ですが、下に兄弟姉妹がいるお宅が多く、中には今年、幼稚園入園というお嬢ちゃんもいらして…そのお嬢ちゃんが5年生になるまで、学校田んぼ続けてくださいとお願いされました。あと8年という、あれ？2021年？オリンピックの次の年？まずは今年も子どもたちと頑張りしたいと思います。田んぼの整備が不十分なので、畦や水路の整備も早めに行いたいと思います（松下恵美子）
- ・みんなが楽しんで里山を維持できるシステムを作りたい（柳町健治）。
- ・いろんな生き物たちと仲良くなって、絶妙な自然のしくみを教わりたいです。そして、できるだけそこから外れない暮らしをしたいです（米澤美紀）。

## 谷津田の農具図鑑① 鍬(くわ)

これからシリーズで谷津田での作業に使う農具を紹介していきます。

シリーズ最初は田んぼの作業で一番お世話になるのが鍬(くわ)です。カシなど硬い木の柄に鉄の刃が付いた鍬は田んぼを起こしたり、泥を寄せたりするために使われ、用途によっていくつかの種類があります。

田起こしに使われるのが**万能(まんのう)**で、刃がフォークのように3本ないし4本に分かれているので土に入りやすく、また泥が付きにくくて扱いやすい鍬です。万能というのは関東地方の呼び名で、備中(びちゅう)鍬とか、三本鍬、四本鍬などとも呼ばれています。

田んぼの畦に泥を塗って水漏れしないようにする作業(くろ塗り)には**平鍬(ひらぐわ)**が使われます。長方形の刃が付いた鍬で、練った泥をこの刃ですくい上げて畦に塗りつけます。ちょうど壁を塗る左官屋さんのような作業に使われます。

あまり見かけませんがもう一種類、**唐鍬(とうぐわ、あるいはトンビ鍬)**と呼ばれる扇形の分厚い刃が付いた鍬があり、開墾や木の根を切るのに使われます。小山ではアシ原になった放棄田を田んぼに戻す時に活躍しました。

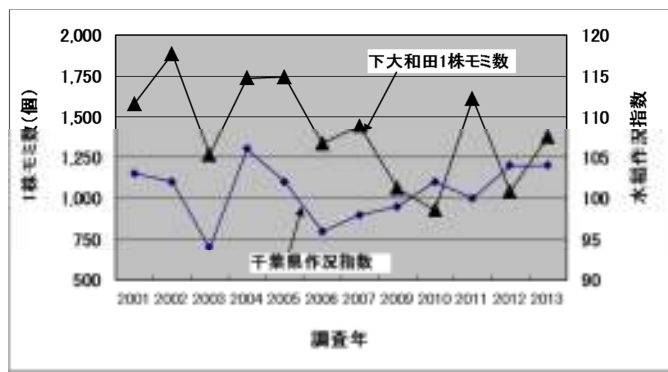
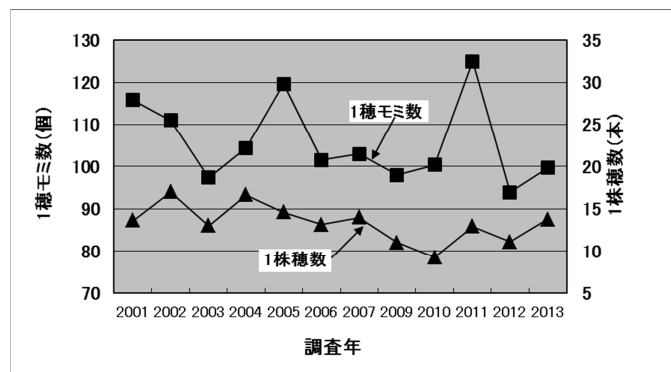
鍬は使う場所の土の性質によって、柄の長さ、刃の形、刃を取り付ける角度が違っているので、農家の方は地元の刃物屋さんでその土地に合った鍬を手配しています(ホームセンターでは手に入りません)。たとえば、泥深い谷津田には比較的大きめの刃が付いた柄の短い万能が適しているようです。

鍬を使う時は大きく振り上げて力強く土に打ち込むようなイメージを持っている方が多いようですが、それほど大きく振り上げず、鍬の重さで振り下ろすようにするのが正しい使い方です。また、土に食い込んだ刃を起こす時に刃の付け根を支点にしてテコのように柄を動かすと刃が曲がってしまうので注意が必要です。農家の方は正しい使い方丁寧な鍬を扱っていますので、ぜひ参考してください。(高山邦明)



## 2013年の下大和田のコシヒカリ生育状況

12月の農水省の発表によると2013年の千葉県は水稻の作況指数は104と前年同様の「やや良」でした。8月に行ったYPP下大和田でのコシヒカリのモミ数を調査では、穂に付いているモミ数は1穂あたり平均100粒と過去最低だった2012年と比べると多かったものの、依然として小さな値でした。一方、1株あたりの穂数が14本と比較的良かったこともあり、YPP田んぼのコシヒカリの収穫量は95kgと2012年よりも2割ほど多くなりました。しかしながら米づくりをはじめた当初のようなモミ数、収量には及ばず地力の低下が気になるところです。(高山邦明)





# 里山たんけんレポート



## 第 167 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2013 年 12 月 1 日 (日) 晴れ

今日は千葉大の留学生の方が参加され国際色豊かな観察会になりました。花も虫も少なくなって、代って冬鳥が渡って来る季節になり、今シーズン初めてのバードウォッチング主体の観察会を行いました。谷津はコナラなどの雑木が黄葉シ、逆光に映えとてもきれいです。スタート場所の林ではメジロの声が賑やかに聞こえていました。田んぼにはダイサギが降りてきましたが人影を見て飛び去って行きました。向かいの斜面林からはカケスのジェーイと言う声が聞こえました。幸先良しとスタートしたのですがアオジやカシラダカは藪の中で動いていても姿を現すことなく双眼鏡を使い慣れていない人には捕らえるのが難しい状態でした。一巡して戻ってきたところ田んぼのかかしにカワセミが来ていて、やっとスコープで見ることが出来ました。このかかしはカワセミお気に入りの場所で田んぼの水が小川に流れ落ちるところで魚が集まるところです。カワセミが去ってここへたも網を入れたところ、アメリカザリガニの子、スジエビ、メダカ、トウヨシノボリ、フナが網に入りました。フナはひと網で7匹も入りました。カワセミの絶好の餌場でした。鳥は 11 種出ただけ (昨日の下見では 16 種) で鳥は少ない印象でしたがこれから増えることを期待しています。

(参加者 大人 9 名、大校生 4 名、こども 2 名、幼児 1 名; 報告: 網代春男)

## 第 156 回下大和田 YPP「収穫祭」(第 13 回米づくり講座)

2013 年 12 月 14 日 (土) 晴れ

昨日の強風では火も焚けないと危ぶまれましたがすっかり収まり絶好の収穫祭日和になりました。先ずは山の小屋からかまどや大なべ、臼などを会場の広場へ運びます。餅つきにはお湯をたくさん使います。火起こしやたき火も始まります。たき火にはサツマイモもたくさん放り込まれました。例によってイカ焼き、魚焼き、焼き鳥などの炭の火起こしも始まります。汁物など料理の準備も参加者みんなが加わり手分けして整えました。頃合いを見て収穫祭開始の挨拶がありお祭りが始まりました。メインイベントは餅つきです。精米した緑米 7 升を 4 臼でつきました。参加者みんなで代わる代わるつきました。餡子で、黄粉で、大根おろしで或いは雑煮にしてお腹いっぱい食べました。バイオリンと太鼓によるアイルランド民謡も披露されました。また、ソーラーパネルによる発電で 2 台の精米機を動かし精米する実演も行われ、配られたお米の精米で終日大活躍していました。山の樹木にかける名札を結えるシュロ縄ないの講習も行われました。こどものゲームはボートレースや枯葉ひらひら、わらで作った輪投げなどを競い、賞品にはクラフト作品が贈られました。米作り講座に参加された方は今日が最終回となります。米作りにかかわった方には収穫したお米を配分し、持ち帰っていただきました。今年は地元でお世話になっている方や地主さんをご招待しました。観察会に参加された留学生の方々も参加され、70 名を超える方々が集い収穫を祝いました。



(参加者: 大人 43 名、大学生 3 名、高校生 4 名、こども 11 名、幼児 9 名、来賓 4 名; 報告: 網代春男)

## 第 102 回小山町 YPP「稲刈り」

2013 年 12 月 8 日 (日) 晴れ

## 第 103 回小山町 YPP「もみすり」

2013 年 12 月 22 日 (日) 晴れ

8 日は田んぼに最後に残っていたコシヒカリを刈りました。ついに 12 月に入ってしまったので、稲はもうすっかり乾燥しており、刈ってすぐに脱穀しました。22 日は唐箕を使って古代米の風選を行い、コシヒカリを含めて今年の収穫のモミすりをしました。今年は田んぼがグンと広くなり、水管理など慣れないこともあって手惑いましたが、何とか年内に作業を終わらせることができみんなひと安心でした。

(参加者: 8 日 大人 7 名、子ども 2 名、22 日 大人 7 名; 報告: 高山邦明、撮影: 齊藤薫・高山邦明)



←12 月! の稲刈り



日だまりでの唐箕を使った風選 →

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 12月 1日 田んぼに氷が張っていたが、ナツアカネとオオアイトトンボの姿を見る(高山)。  
12月 8日 日だまりに赤トンボの姿を見る(種名は確認できず)。今季最後の赤トンボ(高山)。  
12月 9日 風はないものの曇って寒い。裸麦発芽(金谷)。  
12月 15日 冷え込んで田んぼに氷、畦や畑に霜柱。アシ原にシジュウカラが来ていた(高山)。  
12月 22日 アシ原にエナガの群れが来てにぎやかに鳴きながら餌を探していた(高山)。  
12月 24日 冷たい風。小麦発芽確認。もぐら塚がかなり増えてきた(金谷)。

### 下大和田

- 11月 30日 アオサギとダイサギが同じ田んぼで餌を獲っていた。田んぼにそんなにたくさん餌があるのかと思わせるほど啄んでは食べていた。ドジョウやザリガニの他イナゴも食べていた(網代)。  
12月 5日 溝の泥あげをしたら、ザリガニの赤ちゃんがたくさんいた。子蜘蛛さん達が糸にのって旅立ち(金谷)。  
12月 25日 日陰の畦が凍っていた。溝の氷は厚さ一センチほどに(金谷)。  
12月 30日 夜明け直前の気温がマイナス5度で一面氷と霜で真っ白。アシ原にベニマシコの姿(高山)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

### ▼第157回下大和田 YPP「どんと焼きと昔あそび」

年明け最初のイベントは恒例のどんと焼き、そしてベイゴマなど昔懐かしい遊びを田んぼで行います。

今年の米づくりのことなどを話しながら新年の一日を楽しみましょう。

日時: 2014年 1月11日(土) 10:00~14:00 いずれも小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00 (JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、昔あそびの道具、どんと焼きで燃やしたいものなど。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族 100 円、一般 300 円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

### ▼第169回 下大和田 2月の谷津田観察会とごみ拾い

ニホンアカガエルの産卵がはじまるころです。冬鳥を観察しながら田んぼの卵塊を探します。

日時: 2014年 2月2日(日) 10~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00 (下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100 円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

### ☆ちば里山くらぶ「森の手入れと調査」

日時: 2014年 1月18日(土) 10~14時

場所: 下大和田

集合: 下大和田の森の小屋前 10:00 内容: 森の手入れ、森のマップづくり調査および木の名札づくり、シュロを使った縄ないなどします。

主催: ちば環境情報センター

### ▼第104回 小山町 YPP「自然観察とあぜの補修」

真冬の谷津を散策して冬鳥などを観察します。また、アカガエルの産卵に備えてあぜの補修をします。

日時: 2014年 1月26日(日) いずれも 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、もしあれば双眼鏡など。

参加費: 100 円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 みなさん、新年をいかがお迎えでしょうか? 年末年始と真冬の谷津を散策してきましたが、今季は冬鳥の数が少ないようです。やぶやアシ原から聞こえてくる声にいつものにぎやかさがありません。野鳥の数は年によって大きく変わりますので心配することはないのですが、ちょっと寂しく感じます。数は少ないながらも高い山や遠い大陸から渡ってきた鳥たちの姿を見ると、「よく来たね。ここの谷津を選んでくれてありがとう。」と声をかけたくなります。鳥たちが過ごしやすい谷津の環境が維持されるよう今年も米づくりを中心に活動を続けていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。(高山 邦明)